

## 平成 27 年度第 2 回島根県水産振興審議会概要

【日 時】平成 28 年 3 月 22 日（火） 13:30～15:30

【場 所】松江市内中原町 5-2 島根県職員会館多目的ホール

【出席委員】保永委員（会長）、原委員、林委員、小川委員、高尾委員、能海委員、波田地委員、松崎委員、佐々木委員

【県出席者】松尾農林水産部次長、細馬水産課長、角漁港漁場整備課長、村山水産しまね振興室管理監、来間水産しまね振興室調整監、三浦水産課調整監、鳥屋尾しまねブランド推進課調整監、中東水産技術センター所長、持田松江水産事務所長、福島浜田水産事務所長、竹森隠岐支庁水産局長、長野農林水産総務課管理監ほか関係職員

### 【審議概要】

1. 開会 事務局より開会
2. あいさつ 松尾次長
3. 議事

- (1) 「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画」第 2 期戦略プランの取組状況等について  
県共通プロジェクト（案）の概要  
地域プロジェクト（案）の概要  
第 3 期戦略プラン（案）に対する意見と対応  
第 3 期戦略プランにおける各地区での主な取組

### (2) その他

(1)～(2)について、県側から説明。主な意見、質疑は下記のとおり。

沖合底びき網漁業（沖底）の新たな高鮮度化の取組と、これまでのどんちっちブランドとの関係は。

どんちっちブランドは、市がアジ、ノドグロ、カレイの 3 魚種について進めている取組。沖底の取組は漁獲物を高鮮度処理して付加価値向上を図るもの。カレイなど、主に沖底で獲られる魚種については重なる部分もある。

隠岐地域での新たな冷凍技術の導入について、町村間での流通状況は。

基本的に自町内の飲食店等へ出荷。原魚についても自町内で調達されており、広域的な連携には至っていない。

宍道湖・中海の調査について、再来年度にとりまとめるにあたり管理者の国交省とも連携を。

国交省も協議会委員に含まれており、お互いに連携して進めていく。

定置網の複合経営化の今後の展望は。

現時点では 1 経営体のみであるが、他の経営体でも休漁期の雇用対策への意向あり。各経営体の要望を踏まえ提案をしていく。

一般県民への PR のため、マスコミやキャンペーン等を使って積極的に活用を。

新規就業者を 5 年間で 150 人の確保を目標としているが、どの業界も人手不足の中で達成はかなり厳しいのではないかと。

過去の実績を基に目標設定。景気等にも左右されるが何とか確保できるよう進めていく。  
就業者確保のために、船舶免許取得等への支援も検討してはどうか。  
観光客からは島根県産の魚を食べたいという要望が多い。島根といえばこれといった魚を売り出して  
いく必要あり。  
隠岐では、地元のスーパーでも島外から魚が入ってきている。消費者は鮮度への関心が高い。第3期  
プランでは島内消費の拡大に取り組むとのことなので期待している。

4．あいさつ 松尾次長

5．閉会